

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学会 43 回通常総会の開催について	94
○土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ	94
○研究部会長の交代について	94
○論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について (再)	95
○平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について (再)	95
○平成 22 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再)	95
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	96
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	97
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	97
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年春季の表紙写真の募集	97
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	98
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	99
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	99
○支部講演会の投稿票について	100
○第 48 回畑地かんがい研究集会の開催について (第 1 報) ㊦	100
○農村計画研究部会第 32 回現地研修集会の開催について (第 1 報) ㊦	101
○農業農村工学会東北支部国際シンポジウム 2010 の開催について	101
○第 10 回国際水田・水環境工学会 (PAWEES) 研究集会の開催について	102
学会記事	103

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

㊦ のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開 催 日	主 催	行 事 名	テ ー マ	開催場所	掲載号
平成 22 年 8 月 26, 27 日	畑地整備研究部会	第 48 回畑地かんがい研究集会 ㊦	くだもの王国を支える栽培・灌漑技術	岡山市, 倉敷市	78 巻 5 号
平成 22 年 8 月 31 日～9 月 3 日	大会運営委員会	平成 22 年度農業農村工学会大会講演会 ㊦		神戸市	77 巻 12 号 78 巻 1, 3, 4 号
平成 22 年 9 月 9, 10 日	農村計画研究部会	第 32 回現地研修集会 ㊦	水で結ぶ新たな絆を次世代に	高松市	78 巻 5 号

第 78 巻第 6 号予定

展望: 合意形成手法にこそイノベーションを一兵庫県の水利施設整備を事例に: 藤原信好

小特集: 自然と共生する兵庫の水利ネットワーク保全の取組み

- ①ため池の新しい改修技術: 内田一徳ほか
- ②環境再生に向けた挑戦—コウノトリ育む水田環境の整備—: 大田垣知己
- ③国営東播用水地区の適切な施設保全管理に向けて: 藤田 覚ほか
- ④疏水「東播用水と淡山」の管理: 福田信幸
- ⑤兵庫県におけるため池保全・管理の取組み: 武田和義

技術リポート

東北支部: SPR 工法によるサイホンの改修工法選定: 鈴木勝信ほか
 関東支部: 地域住民による直営施工への支援: 小林忠俊
 京都支部: 外山ダムにおけるコンクリートひび割れ抑制計画: 國貞雅生
 中国四国支部: ため池堤体の希少種保存活動と環境配慮対策: 宮崎淳司
 九州支部: 地下水電気伝導度測定による淡水レンズ水収支の検討: 白旗克志

小講座: 環境価値評価: 工藤庸介

私のビジョン: 土壌・地下水汚染の環境リスク評価に向けて: 井上一哉

農業農村工学会第43回通常総会の開催について

社団法人農業農村工学会定款第27条により、第43回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第27条4項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

1. 日 時 平成21年5月19日(水) 14:30~15:30
2. 場 所 農業土木会館6階大会議室
3. 議 案
 1. 平成21年度事業報告
 2. 平成21年度収支決算
 3. 平成22年度事業計画
 4. 平成22年度収支予算
 5. 名誉会員の推挙
 6. 役員の選任

土地改良施設基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ

このたび、土地改良施設基準及び運用・解説—排水機場編—が、平成22年4月19日に発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

※詳しくは本誌76ページに改訂の主旨を掲載いたしましたので、ご参照下さい。

書 籍 名…土地改良施設基準及び運用・解説—排水機場編—

価 格…2,400円(税込・送料学会負担)

規 格…A4判 約220ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合(代金後払)

FAX かメールでお申し込み下さい。様式は問いません。

ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

II. 個人、会社で購入される場合(代金先払)

①現金書留：書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

②郵便振替(00160-8-47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

申 込 先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

研究部会長の交代について

下記のとおり研究部会長が交代しました。

記

応用水理研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 小島 信彦(明治大学農学部)

前部会長 泉 完

畑地整備研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 三浦 健志(岡山大学大学院環境学研究科)

前部会長 千家 正照

水文・水環境研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 後藤 章(宇都宮大学農学部)

前部会長 増本 隆夫

農地保全研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 駒村 正治(東京農業大学地域環境科学部)

前部会長 成岡 市

農村生態工学研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 水谷 正一(宇都宮大学農学部)

前部会長 広田 純一

農村計画研究部会(平成22年4月1日付)

新部会長 石田 憲治(農村工学研究所農村計画部)

前部会長 山路 永司

農村道路研究部会(平成22年4月5日付)

新部会長 緒方 英彦(鳥取大学農学部)

前部会長 牧 恒雄

論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について（再）

論文集編集委員会

論文集の J-STAGE への登載について、論文集購読者へのアンケートおよびホームページにおけるパブリックコメント聴取を経て、発行 1 年後に論文集掲載論文を J-STAGE へ登載すること、また、登載料として著者に 4,000 円を負担していただくことを第 210 回理事会（平成 21 年 5 月 19 日開催）において決定し、論文集 259 号(2009 年 2 月号)より J-STAGE へ登載すべく準備を進めております。

現在、投稿料 16,000 円を投稿時にお振り込みいただいておりますが、J-STAGE への登載料 4,000 円についてもあらかじめ徴収することとし、平成 22 年 4 月 1 日受付分より合計

20,000 円をお振り込みいただくことといたしました。

その理由としては、論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載するために JST に支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料 4,000 円を返金いたします。

なお、論文集 259 号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

なお、論文集 259 号の J-STAGE への登載時期は、今年の夏以降を予定しております。

平成 22 年度「研究グループ」の助成金募集について（再）

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 22 年 6 月 30 日（水）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会 HP 参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意して作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考に、学会誌刷上がり 1 ～2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 22 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（平成 22 年度、原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 22 年 9 月 17 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割

を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成22年9月17日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPO 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌2月号に掲載された通信教育問題から配点を改正（正解率70%以上の場合1.0 CPD ポイントから1.5 CPD ポイントへ、正解率100%の場合1.5 CPD ポイントから2.0 CPD ポイントへ）いたします。詳細については、第53回通信教育問題（学会誌2月号65ページ）をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、CPO 運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1.5 CPD ポイント、満点で2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年4月中旬に取得した点数を本人にお知らせし、5月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況を鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知（農業農村工学会誌）」平成23年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの

機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再

評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1～12月号)のうち、特に春季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

5. 締切 平成22年6月30日(春季の写真)

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙

写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いたします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌78, 79巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78巻 7号 田園地域・里地里山の保全と生物多様性(仮)	公募終了	
8号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術(仮)	公募終了	
9号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり(仮)	公募終了	
10号 農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全(仮)	公募終了	平成22年6月10日
11号 コスト縮減に資する圃場整備(仮)	平成22年5月25日	平成22年7月12日
12号 小特集なし		
79巻 1号 教育の場における次世代育成の現状と課題(仮)	平成22年7月26日	平成22年9月10日
2号 ため池と農業農村工学(仮)	平成22年8月25日	平成22年10月12日
3号 農村における生物多様性の保全(仮)	公募なし	
4号 地域貢献とフィールド研究(仮)	平成22年10月25日	平成22年12月10日
5号 土および土中構造物数値解析の農業農村工学における最前線(仮)	平成22年11月25日	平成23年1月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

78 巻 11 号テーマ 「コスト削減に資する圃場整備」(仮)

農業生産基盤整備の実施に当たっては、地域の実情に即して、効率的、効果的な事業の実施が求められており、総合的なコスト削減の推進を図ることが食料・農業・農村基本計画にも示されています。また、意欲ある多様な農業者への農地集積等の農政課題に適切に対応していくためには、圃場整備への投資が今後も重要となってきます。

しかし、近年の米価の低迷等による農家所得の減少等により、圃場整備に対する農家の投資意欲が減退しています。

このため、地域農業の持続的な発展に資する基盤整備を今後とも実施していくために、たとえば、農地の利用集積の状況な

ど地域の農業構造改革の進展に応じて、畦畔撤去による最小限度の整備で区画の拡大を図り、機械の大型化や水管理労力の節減を図るなど、少ないコストで意欲ある多様な農業者へ農地集積する効果の高い、圃場整備技術の普及が必要です。

そこで、本特集では、更なる意欲ある多様な農業者への育成・確保の契機となる整備手法を推進し、農村社会の持続的な発展に資するため、地域ごとに取組むコスト削減に資する圃場整備技術を導入した基盤整備の取組みについての報文を広く公募いたします。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010 年 6 月末に Vol. 8, No. 2 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010

年 6 月末に Vol. 8, No. 2 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャー

ナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界 13 カ国から Editor(14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009 年 12 月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社の SCIE に収録され、インパクトファクターを獲得したというビックニュースが飛び込んできました。詳細については Editor-in-Chief による海外ニュースが本誌 1 月号 88 ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• **Editor-in-Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)**

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13 カ国から 14 名

• **Editing Board** 32 名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBI

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan.

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者へてご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第 48 回畑地かんがい研究集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



畑地整備研究部会では、平成 22 年 8 月 26, 27 日の両日、岡山県内で研究集会および現地研修会を開催します。農業農村工学会会員・非会員を問わず、多数の参加をお願い致します。プログラムの詳細につきましては第 2 報でご連絡致します。

1. **テーマ** 「くだもの王国を支える栽培・灌漑技術」

2. **開催日**

研究集会: 平成 22 年 8 月 26 日 (木) 9:30~17:00 頃

(受付 9:00~)

現地研修会: 平成 22 年 8 月 27 日 (金) 8:30~16:00

(集合時間 8:00~)

3. 場 所

研究集会: 岡山大学五十周年記念館

〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1 (岡山駅から岡電バスで約 20~30 分)

現地研修会：倉敷市（県営かんがい排水事業備南地区、倉敷
美観地区、酒津公園）の現地視察

4. 問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1
岡山大学大学院環境学研究科 三浦健志
TEL&FAX 086-251-8876
E-mail: miurat@cc.okayama-u.ac.jp

農村計画研究部会第32回現地研修集会の開催について（第1報）

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日 時

平成 22 年 9 月 9 日（木） 研修集会
平成 22 年 9 月 10 日（金） 現地検討会

2. 会 場

アルファあなぶきホール（香川県県民ホール）小ホール
（香川県高松市）

3. 内容（予定）

テーマ：水で結ぶ新たな絆を次世代に
基調講演「安全で快適な魅力ある農山漁村を築くために」
（案） 香川大学長 一井眞比古

その他、地域で活動されている方、学識経験者等よりご講演
をいただく予定です。

4. 問合せ先

農村計画研究部会現地研修集会現地運営事務局
〒760-8570 香川県高松市番町 4-1-10
香川県農政水産部土地改良課計画調査・指導グループ
担当：亀井
E-mail: tochikai@pref.kagawa.lg.jp
☎087-832-3437（ダイヤルイン）
FAX 087-806-0205

農業農村工学会東北支部国際シンポジウム 2010

秋田県立大学フィールド教育研究センター公開シンポジウム

「米どころ秋田で語る—生物多様性保全と水田の未来、そして日韓友好」の開催について

1. 趣 旨

日韓両国において古来多くの技術・文化交流がなされてきたが、なかでも稲作（水田農業）に関しては、人間の生命を育むという意味で最も基盤的なものであり、単なる農業技術に留まらず両国それぞれの生活・文化に深く根を下ろしている。

本年は COP 10（生物多様性条約第 10 回締約国会議）が 10 月に名古屋で開催される。本シンポジウムでは、世界共通の現代的課題である生物多様性保全をキーワードとして、自然条件が類似し文化的にも深く結びついてきた両国の水田の未来と友好を語りあう。

本シンポジウムの開催地秋田県大潟村は、日本を代表する米どころであり、またこれまで約 10 年にわたり若い世代の日韓交流を活発に進めてきている。本シンポジウムは、学術的意義に基づく学会活動であるとともに、当地に位置する秋田県立大学の地域交流活動の一環としても実施するものである。

2. 開催日時 平成 22 年 6 月 20 日（日）9：30～16：50

3. 開催場所 秋田県立大学大潟キャンパス新大講義室

4. プログラム

9：30 開会挨拶 秋田県立大学理事・副学長 新岡 高
9：35 来賓挨拶 秋田県農林部次長 清野 弘久
9：40 趣旨説明 秋田県立大学教授・
農業農村工学会東北支部長 佐藤 照男
第一部 日韓両国における水田農業の発展と生物多様性保全
の将来
9：45 「朝鮮半島における稲作の発展史」
建国大学校名誉教授 Kwan Ho Kim

10：30 「韓国における生物多様性保全と親環境的水辺整備
事例」 建国大学校教授 Sun Joo Kim

11：15 「生物多様性保全を目指す日本の水田農業」
岩手大学教授 広田 純一

12：00 昼食休憩

第二部 実践—水田の生物多様性保全と日韓友好

13：00 「韓国における水田の生物多様性研究」（日本語）
韓国農村開発公社農漁村研究院研究員 Jae Ok Kim

13：20 「秋田県立大学のビオトープ水田と学生教育」
秋田県立大学准教授 近藤 正

13：40 「秋田県における生物多様性保全に配慮した事業事
例」 秋田県仙北地域振興局農村整備第 2 課
長谷川昭博

14：00 「大潟村で実践—生物多様性稲作」
実践農家 相馬喜久男

14：20 休憩

14：30 「丹頂鶴と県立大 FC 水田公園と日韓友好」
大潟草原鳥獣保護区管理員 加賀谷幸男

14：50 補足説明—「秋田県立大学 FC の水田公園について」
秋田県立大学教授 端 憲二

15：00 「わたしの国際理解教育」（日本語）
Kin Ei 中学校教諭 Eun Kyeong Cho

15：20 「中学生たちの日韓交流」
大潟村日韓子ども教育相互交流事業実行委員長
佐々木 登

15：40 休憩

15:50 総合討論「生命を育む水田と日韓友好」

秋田県立大学教授・生物資源科学部長 佐藤 了

16:50 閉会挨拶

秋田県立大学教授・フィールド教育研究センター長
小林由喜也

5. 定員 200名

6. 参加申込み

下記事務局宛電子メールまたはFAXでお申し込み下さい。

申込み・問合せ先:

秋田県立大学生物資源科学部フィールド教育研究センター

端 憲二 (はたけんじ) あて

FAX 0185-45-2415 ☎0185-45-2858

E-mail: hata@akita-pu.ac.jp

〒010-0451 秋田県大潟村大潟6

7. 見学ツアー

シンポジウム前日の6月19日(土)の午後3時頃(予定)より秋田県立大学フィールド教育研究センター内農場および大潟村内等関連施設のバスツアーを計画していますので、希望される方はお申し込み下さい。

8. 交通手段・昼食

会場は交通の便が悪いため、シンポジウム開催に合わせてJR秋田駅より8時頃(予定)チャーターバスを運行します。必要な方は昼食と併せてお申し込み下さい。

第10回国際水田・水環境工学会(PAWEES)研究集会の開催について

国際水田・水環境工学会では、毎年研究集会を開催しています。

今年は、国際水田・水環境ネットワーク(INWEPF)との合同で、10月27日から29日まで、韓国済州島で開催予定です。

発表をご希望の方は、PAWEES ホームページ(<http://pawees.net/>)で詳細をご覧のうえ、ご応募下さい。

1. 会期 平成22年10月27日(水)～29日(金)

2. 場所 韓国済州島 ICC (International Convention Cen-

ter)

3. 研究集会テーマ

水田および農村の環境、気候変動と食料、持続的かんがい管理、ほか

4. 今後の日程

アブストラクトの締切 5月31日

受理通知 6月30日

フルペーパー提出 9月30日

パワーポイント提出 10月15日

環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 農業農村整備事業における 生態系配慮の技術指針



目次

第1章 技術指針の目的と活用

第2章 農村地域の特徴と生物多様性

第3章 ネットワークの保全・形成の基本的な考え方

第4章 調査、計画

第5章 設計、施工

第6章 維持管理、モニタリング

用語集

引用文献・参考文献

検討の経緯

参考資料

A4判 161ページ
定価 3,300円
(内税・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業農村工学会
☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494